

## りびんぐらいぶず 平成29(2017)年2月第1号

# 正覚寺の基本方針と同行方針

### 正覚寺の基本方針

私たちは、仰せのままに南無阿弥陀仏と称えれば直ちに聞こえて下さる如来様のお喚び声に喚び覚まされされつつ、下記の通りの同行方針を掲げて社会に参画することを誓います。

#### 同行方針(どうぎょうほうしん)

- 一、お聴聞の実践を通じてコミュニティを豊かにします。
  - ・ 親鸞聖人七百五十回大遠忌法要を執行します。
  - ・ お聴聞の会(ご法話会)を実践します。
  - ・ ウェブサイト正覚寺で人々の繋がり充実を図ります。
  - ・ 新たな伝統の創造(伝道教学確立)に取り組めます。
- 二、ダーナ(布施)を実践します。
- 三、宗門のリスク課題・打開策に取り組めます。
  - ・ 海外開教使・伝道最前線”を支援します。
  - ・ 無量寿経勉強会を継続実践します。

平成二十九年元旦(日)

正覚寺住職 堅田 玄宥

### はじめに

組織運営を実践するには、基本方針と行動方針を掲げて継続的に実践することが重要であることは異論の余地がありません。

当院で十年来掲げて取り組んで参りましたのが、掲題の方針であります。

いよいよ親鸞聖人七百五十回大遠忌法要を営む年も明けた折も折、かいつまんでその歩みと現状を振り返っておきたいと存じます。

### 基本方針

基本方針の実践面での成果は、先に当院発の仏教讃歌“ふとあおぎみるおすがたは”となって結実して戴いたことでもあります(弊誌平成二十七年二月第四号)。同讃歌の歌詞は基本方針のお心を踏まえて当院で誕生しました。

「ふと仰ぎみるお姿は 救いの名(みな)の仏様

されば、六字と名告(なの)らして 称えてごらんと勧めます」。

英文訳は、北米開教使のご令嬢小畑 タバサ 小都弥さんによります。

“ふと”とは、仏説観無量寿経は住立空中尊のお姿を衆生の側から仰ぎ見るときの有様を謳い

上げたものでありますが、そのお心を問えば、阿弥陀様の本願力は時空を超えて私に仰がしめ称えしめる働きとなって届いて下さる意であります。

As I reverently reflect on the Figure that spontaneously comes to mind,  
Amida Tathagata encourages me to recite The Six-character Name which awakens me to the path leading to emancipation.

この歌詞に作曲して下さったのが本願寺派布教使田淵幸響大阪芸術大学ピアノ演奏学科教授様であります。今から三年前の当院永代経で初演の御法話を営んで戴きました。

今年で三年目になりますが、田淵布教使様には続けてご出講戴いております。

今年も、三月四日午後に営みますので、皆様方にはご記憶に留めて戴き是非ご縁にお会い戴きたく存じます。

その後、ご本山表では第五十一回龍谷教学会議後の和上方が居並ばれる会合でご披露申し上げ、謂わば非公式の公式でご容認戴きました。

また平成二十七年秋の布教講会実践法話でご披露申し上げ、「大変有難い御法話を戴いた」とご指導のK和尚様からお言葉を頂戴しました。

爾来、平成二十八年四月のご本山常例布教から各地の特養老人ホームに至るまでお同行の皆様にお慶び戴いているのであります。

ところが、**信心正因 称名報恩**の御常教の許では、直ちにこの論理構造が担保されている訳ではありません。そこで新たに教学面から論理再構築する必要があったのであります。期せずして、その課程がいわば「伝道教学構築の端緒」となりました。

その経過を顧みれば、第五十一回龍谷教学会議での発表を踏まえて、まことに有り難いことには、平成二十八年度の第二十五回行信教校研究発表の機会をお与え戴き「**伝道教学構築の可能性**」となって結実して戴きました。後述の同行方針第一の第四項はこの心意気を謳ったものです。成果の詳細は追って皆様方にご覧戴く日が参ろうかと存じますので今暫くの間お待ちになって下さいませ。

## 同行方針(どうぎょうほうしん)

同行方針は、七高僧は曇鸞大師の「**同一に念仏して別の道なきがゆゑなり**」(Ref『往生論註』註釈版聖典p120)のお言葉をもとにしております。

如来様から賜った(本願力回向)お念仏の道行きは、お浄土へと続き、終にお悟りの身とならせて戴き(往相回向)、浄土に化生した後は、直ちにお名号と一体となって迷いの世界の苦悩の衆生の上に還り来たって働くという趣旨に承っております。還相回向そのものは、自らの上に還相の菩薩様方が働いて居て下さることからそうと受け止めさせて戴くのであります。

その第一は、「**お聴聞の実践を通じてコミュニティを豊かにします**」であります。

その第二項「**お聴聞の会(御法話会)を実践します**」こそは、今から五年前の仏教壮年会の

例会での現K総代会長のご発案を契機として、爾来、熱心な総代様、会員の皆様と共に毎月励行してきた地道なお聴聞の実践活動であります。正覚寺の如何なる活動であろうとも、それらがこのお聴聞の実践活動に立脚していることは正覚寺の長い歴史を振り返ってもついぞなかったことではないかと窺われます。

第一の第三項は、正覚寺ホームページの運営を指します。開設して既に八年を超えました。ネット上で、「正覚寺 滋賀県」で検索致しますとほぼトップに正覚寺のHPが現れます。近頃のSNSのような若者向けの機能の充実はこれからですが、内容の伴ったご法義活動としてはご本山のHPに対比しても決してひけを取らず、寧ろ、専門店の赴きを呈していることであります。これは、ずっとY元総代様のご尽力でメンテナンスをお世話戴いております。

第二のダーナは、遙か前住の時代からの仏教婦人会活動の一環であります。

第三の「宗門のリスク課題 打開策への取り組み」こそは、変動著しい社会構造の中でご法義活動をどのようにして展開して行けばよいのか、寺院やお同行のコミュニティの維持存続のまさに今日的課題への真っ正面からの取り組みです。

その第一項は、それまでぼちぼちだった海外開教使への情報発信であります。まず何はともあれ、こちらの活動状況を「りびんぐらいぶず」その他に取りまとめ、次項の仏説無量寿経勉強会成果も纏まれば同時に発信継続して参りました。昨年半ばからは南米開教総長様にも直接お送りさせて戴くようになりました。

第三の第二項「無量寿経勉強会(広大会)を継続実践します。」は、大田利生勸学和上様のご指導により、地元滋賀県を中心に、次世代に教学研鑽の息吹を伝承せんとする取り組みであります。一昨年の十月から開始し、今月で第十五回目を開催致します。お東の若手ご住職、僧侶以外の熱心なお同行にもご参加戴き、サンスクリット本をも含めての異本対比の方法による大経勉強会の旨みは、全国にも比類のない取り組みであろうと想われます。毎回最後の半時間余りは、先生からの問い、会員の抱く課題を含め熱意溢れるディベートが繰り広げられます。和上のお持ち下さる論文掲載誌の中で記せずして遭遇しました石田慶和先生の御論文は、筆者の行信教校での研究発表の重要引用文献となって戴いたことは驚きでさえありました。

合掌。

正覚寺「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」実行委員会 二月五日十九時より  
本年 10 月迄のお聴聞の会(御法話会)は、実行委員会会合のためにお休み致します。  
正覚寺仏教婦人会例会 二月十六日(木)一九時半より  
著作編集兼発行元(本願寺派 正覚寺内) 〒520-0501 大津市北小松四五二番地  
077-596-0166、FAX077-596-0196 住職 堅田 玄宥